

現代宗教動向

---

# 新型コロナウイルスがエジプト人の 信仰生活に及ぼした影響

—ムスリムとコプト正教徒に焦点をあてて—

---

岩崎真紀<sup>1</sup>

本稿ではエジプトを含む中東諸国の新型コロナウイルス感染状況の概観を行ったうえで、エジプトの主要宗教であるイスラームとコプト正教会について、各宗教組織の感染拡大への対応について考察した。

---

<sup>1</sup> いわさきまき：松山大学経済学部准教授

## 1. はじめに

2019年末に中国で発生し、2020年1月以降世界全体を揺るがすこととなった新型コロナウイルス COVID-19（以下コロナ）の感染拡大は、中東の大国エジプトにも多大な影響を与えた。エジプトは中東諸国のなかでも1、2を争う人口規模を持つ国であると同時に、観光立国でもあることから、当初からその動向は国際的にも注目を浴びた。国民の大多数がスンナ派イスラームもしくはコプト・キリスト教を信仰するエジプトにおいて、コロナは人々の信仰生活にも前例のない影響を及ぼした<sup>1)</sup>。

本稿ではまず中東諸国のコロナ感染状況の概観を行う。つぎにエジプトにおけるムスリムとコプト正教徒（以下コプト）のコロナ禍以前の信仰生活を考察したうえで、コロナ禍が与えた影響について、おもにワクフ庁とコプト正教会の信徒への対応に焦点をあて論じる。なお、コプト・キリスト教といった場合、コプト正教会、コプト・カトリック教会、コプト・プロテスタント教会（エジプト福音教会）の3宗派が存在するが、本稿が対象とするのはこのなかで大多数を占めるコプト正教徒である<sup>2)</sup>。

本稿で扱うエジプトに関する情報は、コロナ禍以前に関しては2003年7月から2013年3月にかけて上エジプト（エジプト南部）ミニヤ県において筆者が断続的に実施した現地調査で得た情報にもとづく。コロナ禍以降については、2021年1月14日までにエジプト、カタール、サウジアラビア、イギリス、アメリカ、日本の報道機関から得た情報にもとづく。アラビア語に関しては、原則としてアラビア語エジプト方言をカタカナで表記する。

## 2. 中東諸国およびエジプトにおけるコロナ発生状況

### 2.1 中東に含まれる国々

「中東」が意味する地域に含まれる国々は、それを定義する個人や組織によって異なる。本稿では『岩波イスラーム辞典』（大塚2001: 638）

図1 中東および周辺諸国



出典：地図データ@2021 Google

の定義に従い、アフガニスタン、イラン以西のトルコやアラビア半島を含む西アジアと、スーダンやモーリタニアを含む北アフリカ一帯を中東とみなす(図1)。後述する国別コロナ感染状況もこの定義に沿った中東の国々に焦点をあてる。

コロナの感染拡大が世界的に注目され始めた2020年1月以降、米国のジョンズ・ホプキンス大学は、WHO(世界保健機関)、米国疾病予防管理センター、欧州疾病予防管理センター、中華人民共和国国民健康委員会、各国の保健機関やメディアなどさまざまな機関から取得した情報をもとに、感染者数等のデータを継続的にホームページで公表してきた。本稿執筆中の2021年1月11日時点では、同大学コロナウイルス資源センターのホームページ(Johns Hopkins University Coronavirus Resource Center 2021b)で世界172カ国の感染者数、死者数、死亡率、10万人あたりの死者数の国別統計データが掲載されている。本項では2021年1月10日分のデータにもとづき作成した「表1. 死亡率順国別新型コロナウイルス感染状況」をもとに、中東諸国のコロナ感染状況を概観する。

死亡率に着目したこの表からは、イエメンの状況が世界的にみても非常に深刻なものであることが分かる。29.00%という数値は172カ国中突出して高く、2位のメキシコの8.70%、3位のエクアドルの6.40%、のを大きく引き離している。10位までのなかには、イエメンのほか4

表1 死亡率順国別新型コロナウイルス感染状況〔10位まで〕〔グレーは中東の国〕

2021/1/10 現在

順位	国	死亡率	感染者(人)〔累計〕	死者(人)	10万人あたりの死者(人)
1	イエメン	29.00%	2,164	610	2.14
2	メキシコ	8.70%	1,524,036	133,204	105.56
3	エクアドル	6.40%	220,349	14,177	82.98
4	シリア	6.30%	12,274	768	4.54
5	スーダン	6.30%	23,316	1,468	3.51
6	エジプト	5.50%	148,799	8,142	8.27
7	ボリビア	5.40%	172,798	9,351	82.36
8	中国	5.00%	96,690	83	1.72
9	リベリア	4.70%	1,779	6,187	6.29
10	イラン	4.40%	1,280,438	56,100	68.58
121	日本	1.30%	282,737	3,805	3.01

出典：Johns Hopkins University Coronavirus Resource Center (2020b) をもとに筆者作成

位のシリア(6.30%)、5位スーダン(6.30%)、5位エジプト(5.50%)、10位イラン(4.40%)が入っており、10か国中5か国が中東の国々である。他の地域は、中南米が3カ国(メキシコ、エクアドル、ボリビア)、サハラ以南のアフリカが1カ国(リベリア)、東アジアが1カ国(中国)であることから、中東には他の地域よりも死亡率が高い国が多いことが分かる。参考までに述べると、日本の死亡率は121位(感染者累計282,737人、死者3,805人、死亡率1.30%)である。

イエメンの死亡率が世界でも際立って高い背景には、内戦とそれにとりもなう医療施設の破壊や衛生環境の悪化が存在する。中東の多くの国では、長年にわたり独裁政権が支配をつづけてきたが、2010年末頃から各地で民衆による反体制運動が起きた。「アラブ革命」(いわゆる「アラブの春<sup>3)</sup>」)と呼ばれるこの運動により、イエメン、シリア、リビアでは内戦が起これ、約10年経った現在でも解決の糸口すらみえない状態に

陥った。チュニジアとエジプトでは20～30年間つづいた長期独裁政権が崩壊したが、その後の社会状況は良いとはいえない。

イエメンに関しては、2019年に国連人道問題調整事務所（OCHA）が「世界最悪の人道危機」に直面している国として、国際社会に支援を呼びかけたことは記憶に新しい（OCHA 2019）。毎日新聞は2020年4月25日の時点で、（イエメンで）「仮にコロナ感染が広がれば、医療環境の悪さと人口過密、食糧不足による免疫力低下で、致死率が高まるのは必至とされる」と指摘したが（鶴塚 2020）、それが事実となったことをこの死亡率約30%という数値は示している。感染拡大以降、イエメンの首都サヌアで医療支援を行うNGO国境なき医師団は、感染が社会的差別をもたらすことへの恐れや誤った情報による人々の診療拒否、感染への恐怖にともなう医療従事者の離職などが大きな問題となっていることを指摘している（Médecins Sans Frontières 2020）。

## 2.2 エジプト

エジプトでは2020年2月14日に国内最初のコロナ感染者が確認されたが、これはアフリカ大陸では初、中東ではUAE（アラブ首長国連邦）につづく2番目のケースであった（Al Jazeera, 2020）。最初の感染者は国籍は公開されなかったものの外国人（Ibid）で、3月8日に最初に死亡した患者も外国人（ドイツ人）だった（Reuters 2020/3/9）。後者が紅海沿岸のリゾート地ハルガダに滞在していたことや、外国人観光客向けアクティビティとして人気の高いナイル川クルーズに参加した外国人のなかにも多くの感染者が発生（含日本人26人、NHK, 2020）したことから、当初エジプト政府は、コロナは外国人がもたらしたもので、エジプトは被害者であると示唆していた（Raghavan 2020/3/10）。

3月下旬になるとエジプト人のあいだでも徐々に感染者が増え、5月、6月には爆発的に増加、これまで（2021年1月11日時点）で最多の感染者1,774人（6月19日）と死者97人（6月15日）を記録した（Johns Hopkins University Coronavirus Resource Center 2021a）。7月以降は徐々に減少し、9月以降10月下旬まで1日当たりの感染者は100～

170人前後、死者は10～15人前後まで減った。しかし11月に入ると再び感染者、死者ともに増加しはじめ、12月に入ると第2波が訪れた。2021年1月に入ると、多少の減少がみられる。2021年1月10日時点でエジプトのコロナ関連数値は、感染者累計148,799人、死者8,142人、死亡率5.50%、10万人あたりの死者数は8.27人である(表1)。

グラフ1は2020年2月14日から2021年1月10日までのエジプトにおける感染者数と死者数の推移をまとめたものである。これを見ると5月、6月、また、12月に感染が急激に拡大したことがよく分かる。

### 3. コロナ禍以前のエジプトの宗教状況

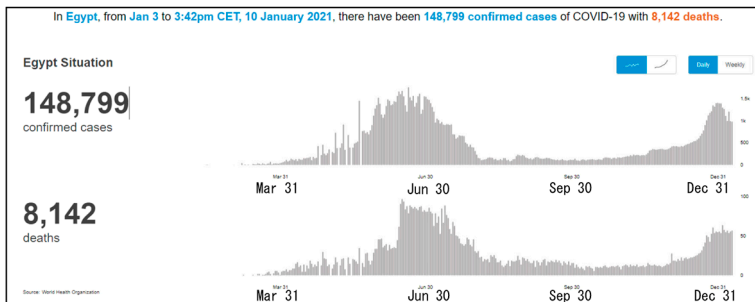
本稿のテーマはエジプト人の信仰生活にコロナが及ぼした影響であるが、まず、エジプトの宗教状況と人々の信仰生活についてみておこう。

#### 3.1 現代におけるムスリムとコプト正教徒の関係

エジプトの主要宗教はイスラームとコプト・キリスト教である。各宗教がエジプトにもたらされたのはキリスト教が1～2世紀頃<sup>4)</sup>、イスラームは7世紀で、キリスト教の方が長い歴史を有する。しかし現在の信徒人口比は、一般的にはムスリムが90～95%、コプト正教徒を中心とす

グラフ1. エジプトにおける1日当たりの感染者数(上)および死者数(下)の変遷

2021/1/10現在



出典：WHO (2021)、日付部分のみ筆者が加筆。

るキリスト教徒やその他宗教を信仰する人々が5~10%である (CIA 2020; Hackett 2011)<sup>5)</sup>。上エジプトのミニヤ県・アスユート県・ソハーグ県とカイロやアレクサンドリアなどの大都市圏にはコプトが多い。1986年の政府統計ではミニヤ県のコプト人口比がもっとも高く、総住民の18.9%を占める (三代川 2017: 22)。その後、正確な政府統計は出ていないが、ミニヤでは多くの人々が「ムスリム約70%、コプト約30%」という数値を口にしている。

2020年現在のエジプトの総人口は99,848,720人 (CAPMAS 2020)であるため、上記の宗教人口比が正しいと仮定すると、現在のエジプトにおけるムスリム人口は約9000万~9500万人、コプト正教徒人口は約475万~950万人であると考えられる。また、コプトのなかには欧州、北米、南米、豪州等に移民した信徒も非常に多く、その数はコプト総人口の20~30%程度と推測される (Khalil 1999: 3; Brinkerhoff and Riddle 2012: 5; 岩崎 2017: 101)。

エジプトで市井の人々にムスリムとコプトの関係を尋ねると、大抵は「イフナ・オフワート (わたしたちは兄弟だよ)」という答えが返ってくる。この言葉が示すとおり、通常、彼らは特に大きな問題なく共生している場合が多い。筆者の調査地であるミニヤ県ミニヤ市近郊の10ヶ村のうち、8ヶ村ではムスリムとコプトが混住しており、ミニヤ市内でも特定の宗教の居住区域というものはない。多くの場合、2宗教の信徒は隣り合って暮らしている。

しかしながら、イスラームを国教とし、国民の大半がムスリムであるエジプトにおいて数的マイノリティー<sup>6)</sup>であるコプトが、一部ムスリム武装勢力によるテロリズムや暴力行為の対象となっていることもまた事実である (岩崎 2012)。近年ではとくに2011年の1月25日革命前後から2018年までのあいだ、教会や修道院への攻撃が相次いだ。ウォールストリートジャーナルによれば2015年から2019年までのあいだに140人のコプトがIS (Islamic State) 等の武装勢力の攻撃により死亡した (El-Fekki and Maslin 2019/4/26)。最近の例を挙げれば、2017年4月に下エジプトのアレクサンドリアとタンタの教会で自爆テロが起こり

45人が犠牲となった(BBC 2017/4/11)。翌5月にはミニヤ県の聖サミュエル修道院へ向かう参詣者たちが乗ったバスが銃撃され、35名の死者と多数の負傷者を出した(Reuters 2018/11/3)。この修道院近くでは翌2018年11月にも同様の状況で参詣者のバスが銃撃され、その際には7名が死亡した。そして、これら以外にもいくつもの事件が各地で起きている。

コプトに対する度重なる襲撃をうけ、2019年1月6日、アブドゥル＝ファッターフ・アッ＝シーシー大統領(在任2014～)はムスリムとコプトの連帯を示す象徴的行為として、新設されたばかりのエジプト最大のコプト大聖堂で行われたクリスマス・ミサに出席した。この席で、シーシー大統領はみずから「過激主義からキリスト教徒を守る者」と位置づけ、「我々(ムスリムとコプト)は1つであり、これからも1つでありつづける」と宣言した(BBC 2019/1/7, 括弧内は引用者)。それ以降、大規模テロは起きていないものの、コプト人口の多いミニヤ県やソハーク県では、一部ムスリムからの嫌がらせや攻撃はつづいている(El-Fekki and Maslin op.cit)。

### 3.2 コロナ禍以前のエジプト人の信仰生活

多くのエジプト人にとって、宗教は日常生活と密接な関わりをもっている。ここではコロナ感染拡大の契機となりうる宗教実践として、礼拝／ミサ、聖者信仰／聖人崇敬、祝祭という3つの宗教実践に焦点をあてる。エジプトのムスリムとコプトには多くの共通点があるが、とくにここで考察する宗教実践についてはその傾向が顕著である。

#### 3.2.1 礼拝／ミサ

イスラームにおいて1日に5回の礼拝(サラート)は五行(ムスリムが守るべき5つの宗教的義務)の1つである。礼拝は後述する例外を除き個人で行ってもよいが、なるべくなら複数人で行うことが望ましいとされる(森2001:128)。普段の礼拝は職場や家庭で行ってもよいが、成人男性の場合、金曜日の礼拝は集団で行うことが義務であることから、





写真1. イスラームの金曜集団礼拝後のモスク入口 (2006/1/27, ミニヤ県ミニヤ市フーリー・モスク, 以下、写真は断りのない限り筆者撮影)



写真2. コプト正教会の日曜ミサ (2009/8/9, ミニヤ県マナーハラ村アブナー・アブドゥル＝マスィーフ教会)

通常はモスクで行われる。また金曜日はモスクでの集団礼拝に参加する女性や少年たちも多い。金曜集団礼拝では、通常の礼拝のほかに礼拝指導者(イマーム)による説教(フトバ)も行われるため、全体で30～40分にわたる場合が多い。

コプト正教会においては、エジプトの公休日である金曜もしくはキリスト教における聖日である日曜の午前中に行われるミサ(正教会の和訳では奉神礼, アラビア語ではクッダース)に参加することが信徒の生活のなかで重要な位置を占める。ミサは8時前後から11時前後に2時間半から3時間程度かけて行われる場合が多いが、信徒のなかには6～7時頃には聖堂に行き、ミサ開始まで個人的に祈りを捧げる信仰熱心な信徒も少なくない。筆者の調査のなかでは、とくに年配の女性にその傾向がみられた。

コロナ禍以前のエジプトのモスクや教会は、とくに上述の曜日・時間帯に行われる礼拝/ミサの際には、人であふれかえっていた。モスクに入りきれないムスリムは外の通りにサッジャーダ(礼拝用絨毯)を敷いて礼拝し、教会では座席につけなかったコプトが聖堂内の側廊や出入口に立ったままミサに参加していた。

写真1, 2はコロナ禍以前のモスクや教会の礼拝/ミサの際の混雑した

様子を写したものである。

モスクでの礼拝、教会でのミサは単に人が多いだけではなく、他の信徒との身体的接触がともなう。イスラームの礼拝においては、信徒は両肩が隣の信徒の肩と触れ合うように並ばなければならない。礼拝中はクルアーンの章句や特定のフレーズ（「アッラーフ・アクバル（神は偉大なり）」、「ラー・イラーハ・イッラッラー（神のほかには神なし）」等）を唱える。顔を左右に向け、「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥラー（あなたがたのうえに平安あれ）」と声に出して唱える所作もある。

コプト正教会のミサにおいても、聖書の章句や特定のフレーズ（「アーメン（司祭等の言葉に対する賛同の意）」、「サラム・ラキ・ヤー・マリヤム（おお、マリアよ）」等）を唱える機会が多々ある。また、讚美歌の斉唱、近くにいる信徒同士で握手をして「平和がありますように」と言い交わす平和のあいさつなども行われる。ミサのもっとも重要な部分である聖体礼儀では、キリストの体と血として聖別されたパン（聖餅）とぶどう酒が司祭の手から直接信徒の口に入れられる。

### 3.2.2 聖者信仰／聖人崇敬

信仰の場において人々が密接する契機は礼拝／ミサの時間帯だけではない。エジプトでは、著名な聖者／聖人（Saint<sup>7)</sup>）にかかわる聖者廟や教会には日常的に多くの参詣者が訪れる。以下、筆者が調査を行ったミニヤ県の著名な聖者フーリーの聖者廟と聖人アブーナー・アブドゥル＝マシーフの名を関した教会での信徒の宗教実践の様子を簡単に描写してみよう。

ムスリム聖者廟においては、信徒は慕廟に口づけし、バラカ（神の恵み。この場合は聖者を通して得られるとされる）を得ようとする。ナズル（願かけ）をする信徒は、廟に手を触れたまま心のなかで願いごとを唱える（写真3）。悩みの解決のためにナズルを行う信徒のなかには、涙を流す者もまれではない。また、朗々とクルアーンを朗誦する信徒もいれば、座り込んで日常的なことから宗教的なことまで、さまざまな事柄を語り合う信徒たちもいる。日によっては、タリーカ（イスラーム神秘



写真3. 聖者フーリーの墓廟に触れる  
ムスリムたち (2005/12/23,  
聖者フーリー廟)



写真4. 聖アブドゥル=マシーフの  
聖遺骸が入ったケースに触れ  
るコプトたち (2009/8/9, ア  
ブナー・アブドゥル=マ  
シーフ教会)



写真5. コプト教会を訪れるムスリム  
一家 (2005/8/9, アスユート県  
ドロンカ修道院)



写真6. 存命中に聖人といわれたコプ  
ト司祭のもとを訪れるムスリ  
マたち (司祭がバラカを与え  
るために手を置いた女性と手  
前の女性, 2009/12/25, ミニ  
ヤ県サフト・シャルキーヤ村  
聖ジョージ教会)

主義教団〔スーフイー〕がズィクル(信仰告白〔シャハーダ〕や神の名の連禱や特定の所作を通じたスーフイズムの修行法)を行うこともある。

コプト正教会では、参詣者たちは聖遺骸(布にくるまれ、透明なケー

スに入れられた聖人の遺体)や聖遺物(聖人が生前身につけていた衣類や持ち物)に手で触れたのち、その手をみずからの唇につけ、バラカ(神の祝福。この場合は聖人の仲介により得られるとされる)を(写真4)。聖人崇敬で有名な教会の敷地内外には店舗や露店が出ており、遠方から訪れた信徒の多くはピクニックのように広場や通りに座り込んで飲食し、談笑する。こうした教会にはムスリムが訪れることもまれではない(写真5, 6)<sup>8)</sup>。

### 3.2.3 祝祭

祝祭も人々が集まる重要な宗教実践である。イスラームとコプト正教会は、それぞれ1年に2つの大祭を盛大に祝う。イスラームにおいては断食明けの祭と犠牲祭であり、コプト正教会においてはクリスマス(公現祭)と復活祭である。これら2大大祭の際には、特別な礼拝/ミサが行われるため、通常よりもずっと多くの信徒がモスク/教会に赴く。礼拝/ミサの終了後は、親戚が一同に会し、祝祭用のご馳走をともに食し、旧交を温める。子どもや若者たちは祝祭のために新調した服を纏い、子どもは大人からイーディーヤ(お年玉)を受け取る。こうした点は日本の正月とよく似ている。歓談後は親族や友人の家を訪問し、挨拶を交わす。訪問された側は簡単な茶菓でもてなす。地域によっては、イスラームの祝祭であっても、コプトがムスリムの自宅を訪れ、相手の祝祭を寿ぐケースもみられた(岩崎2012: 227)。

ムスリムにとっては30日間にわたるラマダーン月も祝祭的雰囲気をもつ。日の出から日没まで一切の飲食を断つイスラームの断食<sup>9)</sup>は五行の1つで、ある程度成長し、健康であれば信徒は実践の義務を負う(例外は戦場の兵士、妊婦等)。日中飲食できない分、夜の食卓にはラマダーン月特有の料理や茶菓がいっぱいに広げられ、人々は親族や友人を自宅に招き、イフタル(日没後最初の食事)を振舞う。

しかし、これまで当たり前に行われてきたこうした宗教実践は、コロナ禍においては感染拡大と結びつくものとなってしまう、後述するとおり、政府や宗教組織により一時的に禁止されることとなった。

## 4. コロナ感染拡大がエジプト人の信仰生活に与えた影響

### 4.1 政府による社会的規制

第2章でみたとおり、エジプトでは2020年2月14日に最初の感染者が確認されたのち、3月下旬になるとその数は徐々に増えはじめた。感染拡大防止のため、エジプト政府はまず、3月9日に大規模集会と大人数での他県への移動を規制した (Raghavan 2020/3/10)。その後、同月16日から2週間の条件で小学校から大学までの教育機関の休校、礼拝を含む大人数での集まりや地元サッカーリーグの試合禁止を追加した (Reuters 2020/3/15)。3月19日には、同日から31日までの約2週間、午後7時から午前6時のあいだレストラン、カフェ、ナイトクラブ、公共機関が閉鎖された (BBC News 'arabi 2020/3/19)。同時期にはエジプト滞在中の外国人観光客の帰国便と貨物便を除いた国際航空便の運航も停止された (Reuters 2020/3/17)。その後、3月24日には、翌25日から31日まで午後7時から午前6時までの外出禁止令が宣言され、違反者には最高4,000エジプトポンド (約28,000円) の罰金もしくは投獄という罰則が設けられた (Mourad and Lewis 2020)。

こうした対策を講じても感染者数の減少がはかばかしくなかったため、当初2週間の予定ではじめられたこれら制限の多くは、多少の緩和をとれないつつも2020年6月下旬まで3カ月以上にわたりつづけられた (Reuters 2020/6/24)。その後事態は収束したかにみえたが、12月以降再び感染者が急増したため、政府は元日の大人数の集会を禁止した。しかし、今度は経済への影響に配慮する必要がでてきたため、現在までのところ、2020年3月から6月までのような厳しい措置はとっていない (Soliman 2020/12/23)。

### 4.2 モスクと教会の動き

#### 4.2.1 ワクフ庁の対応

感染拡大防止のために社会や個人の活動が制限されるなか、宗教界の対応は比較的早かった。まず、10世紀からの伝統を持つイスラーム研

究・教育機関アズハル機構の大イマームアフマド・タイブ師（在任2010～）が3月14日に、「このような衛生上の危機のなかでは、金曜集団礼拝をはじめとする集団礼拝を取り止めることは許容される」とするファトワー（イスラーム法学者による法学的裁定）を出した（Egypt Today 2020/3/21a; Mourad 2020/3/22）。しかし、その直後の3月20日金曜集団礼拝の時間帯にはカイロ旧市街に位置する預言者ムハンマドの孫娘サイイダ・ザイナブ（?～682）の廟を併設するサイイダ・ザイナブ・モスクの外に多数の信徒がつめかけた。そのためエジプトの宗教担当省庁であるワクフ庁は同日、このモスクを閉鎖し、あらゆるモスクおよび礼拝場を3月21日から2週間にわたって閉鎖することとした（Egypt Today 2020/3/21b）。葬儀のためのモスク利用も例外ではなく、ジャーザ礼拝（葬儀のための礼拝）は屋外でのみ許可された（Mourad op.cit）。エジプトには100,000以上のモスクが存在するが、アズハル上級ウラマー評議会は「人々をコロナウィルスから守る」ために、政府はモスクを閉鎖する権利があると表明し、信徒の理解を求めた（Ibid）。

モスクでは通常、礼拝前に礼拝への呼びかけ（アザーン）がスピーカーを通じて街中に流されるが、そのなかの「礼拝のために来たれ（ハイヤー・アッサラート）」というフレーズが、コロナ禍では「礼拝は家で（アッサラート フィー ブユーティクム）」に変更された（Egypt Today, 2020/3/21b）。

その後、限定的ではあるものの、モスクが再開したのは3月21日の閉鎖から約2か月半後の6月5日のことだった。同日、カイロの主要モスクの1つアズハル・モスクで金曜集団礼拝が行われた。参加者はイマームと同モスクの関係者からなる20名のみだったが、礼拝の様子は国内TV放送とアズハル機構が有するソーシャルメディアを通じて中継された。その後、金曜集団礼拝は特定のモスクでのみ20名程度限定で許可されたものの、それ以外のモスクでは閉鎖がつづいた（Al-Shamaa 2020/6/5）。

通常モスクで礼拝の再開が認められたのは6月27日のことである。ただし、金曜集団礼拝は禁止がつづき、それ以外の礼拝のみ再開が許可



された (ElSharqay 2020/11/25)。ワクフ庁は、マスクの着用、個人用サッジャーダ (礼拝用絨毯) の持参、1.5 m 以上の対人距離の確保、トイレとウドゥ (礼拝前の清め) 用水場の閉鎖、子どもは出席不可等の規定を定め、守られなかったモスクは再閉鎖するとした (Al-Samaa 2020/6/3)。モスク併設の式場は閉鎖、葬儀礼拝もひきつづき禁止とされた (Ibid)。

ワクフ庁の姿勢は比較的厳格で、感染拡大の第1波と第2波の際には規定が守られないモスクには一時的な閉鎖を命じている。代表的なところでは、6月27日から7月6日にフサイン・モスクが、12月29日から2021年1月13日にはヌール・モスクが閉鎖され、イマームと職員に対しても管理不備を理由に罰金や給与が科された (Ahrām Online 2020/7/6; 12/29, ElSharqawy 2021/1/13)。フセイン・モスクの場合は、預言者ムハンマドの孫フサイン・イブン・アリー (626-80) の廟を併設しているため、コロナ禍以前から参詣者が多く、再開後も多くの人がモスクと廟を隔てる壁の前に殺到し、対人距離の確保が守られなかった (Ahrām Online 2020/7/6)。なお、ワクフ庁は対策として再開後は聖者廟を閉鎖している (Ibid)。ヌール・モスクはカイロ中心部アッバスィーヤ地域にある大規模モスクだが、ここはマスクの着用、個人サッジャーダの使用、対人距離の確保が守られなかった信徒が多数見受けられたため一時的に閉鎖された (ElSharqawy 2021/1/13)。

金曜集団礼拝については、2020年8月28日から一般のモスクでも解禁された (Ibid. 2020/11/25)。ただし、ワクフ庁公認のイマームのもと、限られたモスクでのみ許可され、開館は礼拝10分前、フトバは10分以内、終了後は即座に閉館という規定が設けられた (Alaa El-Din 2020/8/19)。

こうした規制以外に、ラマダーン月とイスラームの2大祭である断食明けの祭・犠牲祭の前後には特別な規制が政府により設けられた。具体的にはラマダーン月 (2020年4月23日～5月23日) のあいだは宗教にかかわる集会在禁止された (Reuters 2020/4/8)。そもそもモスクが閉鎖されているため、人々はラマダーン月の夜にモスクで行われるタ

ラーウィーフ礼拝に参加することができず、コロナ禍以前は親族や友人とともに食卓を囲んでいたイフタルも、コロナ禍では同居する家族だけのこじんまりとしたものとなった。

5月24日から始まった断食明けの祭の際には大祭特有の活発な人の往来を抑えるため、さらに厳しい制限がなされた。5月29日までの6日間、政府は外出禁止時間を午後9時から午後5時に繰り上げ、エジプト全土の店舗、モール、海水浴場、公園を完全に閉鎖、公共交通機関も停止した (Alaa El-Din 2020/5/17)。

犠牲祭は社会的規制が緩和されたあとの7月だったため、厳格さは多少薄れ、7月31日の犠牲祭前後の数日間、商業施設とモールは22:00まで、カフェ、レストラン、屋台等、食品を提供する店舗は午前0時までの営業とされるのみにとどまった (Egypt Independent 2020/7/24)。日本人からするとこの閉店時間でもずいぶん遅く感じるが、コロナ禍以前のエジプトでは、とくに夏にラマダーン月や祝祭がある場合、人々は昼間の暑さを避け、夜が活動の中心となる。明け方近くまで出歩く人も少なくないため、そのころまで開いている店舗も多々あったのだ。

#### 4.2.2 コプト正教会の対応

コプト正教会でもイスラームと同時期に類似した動きがみられたが、各動きの時期は若干異なる。まず、アズハル機構大イマームによる金曜集団礼拝の停止に関するファトワーが出された翌日の2020年3月15日、コプト正教会広報官ポール・ハリーム司祭が、教会における教育的プログラム、大人数の集会、託児所、リハビリ施設、教会を通じた旅行での礼拝、少人数での祭祀以外の儀礼の中止を表明した (Egypt Independent 2020/3/16)。この時点では混雑を避けた場合に限り、1日1回の教会でのミサは認められていた。しかしワクフ庁がモスクを閉鎖した3月21日になると状況は一変し、原則としてはほすべての教会、葬儀会場の閉鎖、宗教儀礼、ミサ、集会の停止、修道院の訪問が禁止された (Ibid. 2021/3/21)。葬儀のみ、各教区で定められた1教会のみで行うことが許され、その場合も参列者は親族に限定された (Ibid.



2021/3/21)。コプト総主教タワードロス II 世（在位 2012～）を頂点とする聖シノド（教会会議）常任委員会の声明では、「集会はウイルスの急激な拡大を引き起こす最大の脅威であることから、コプト正教会が担う国家的、教会的責任に鑑み、エジプトのすべての人々を守るために」この決定を下したと述べられている（Ibid）。また、海外在住のコプトに対しても、居住先の関係当局の指示に従うよう求めた（Ibid）。

モスクでの一部礼拝の再開がワクフ庁により宣言された 2020 年 6 月 27 日、コプト正教会もそれまでの制限を多少緩和した。このときに発表された包括的覚書では、奉仕活動、日曜学校はひきつづき停止、葬儀は遺族のみ出席可、結婚式は新郎、新婦、輔祭、司祭以外は 6 名のみ出席可、ミサは 1 日 1 回のみ司祭 1 名、輔祭 4 名、他 20 名まで出席可とされた。また、教会ではマスクの着用、入室前の検温、定められた対人距離の確保、スカーフ（女性のみ）や水の持参、握手の禁止等が義務づけられ、各教会は医師を含むメンバーからなる対策委員会を設立し、適切な感染防止策がとられているか監視することとされた（Egypt Today 2020/6/28）。

ミサが部分的に再開されたのは 8 月 3 日のことである。このときには、公休日のため混雑する金曜日を除く曜日のミサと祝祭日の礼拝や葬儀の再開が認められた。教会は、エジプト保健・人口省が公表するコロナ関連の数値にもとづき再開を決定したとし、ミサは事前予約制、聖堂の座席使用率が 25% に達した場合はつぎの回にまわされる、聖堂内では長椅子 1 台につき着席できるのは 1 人までといった規定が示された（Egypt Today 2020/8/2, 3）。

イスラームの金曜集団礼拝が再開したのは 8 月 28 日であったが、コプト正教会の金曜ミサの再開はそれより 2 週間遅く、9 月 11 日だった。参加者の人数を制限したうえで、感染防止対策を十分に施し再開されることとなった。また、託児所も収容率を 50% に減らし再開されることとなった（Egypt Today 2020/8/23）。

しかしながら、12 月の第 2 派到来により、コプトのあいだでも聖職者や教会を頻繁に訪れる信徒のなかで感染者が増加する。12 月 6 日に

は24時間以内に5人のコプト司祭がコロナにより死亡した(Emam 2020/12/6)。この事態に対して教会は12月7日に再び教会での活動に制限を設ける。カイロとアレクサンドリアの教会において、ミサ、日曜学校、集会、礼拝を停止、葬儀は遺族と司祭、輔祭各1人、洗礼は司祭が信徒宅で行うことは認めず教会内に限定し、参加者は幼児とその家族4人までとした。ただし、神学校やコプトが運営する教育施設では出席率を25%に抑えたうえで開講をつづけている。グレゴリウス暦12月10日から1月8日(閏年の場合は12月11日から1月9日)はコプト暦キヤフク月で、クリスマス(公現祭、1月7日)を控えるこの期間、コロナ禍以前の教会では毎週土曜日の夜に信徒が集まり、特別な頌歌を歌う儀礼が行われていた。しかし、12月6日に出されたコプト正教会の声明では、今年は教会での実施は中止するため、コプトが運営する衛星放送チャンネルで放映される録画をみるのが奨励された(Emam 2020/12/6)。

## むすびにかえて

本稿ではコロナ禍がエジプトのムスリムとコプトの信仰生活に与えた影響について、おもにワクフ庁とコプト正教会の各信徒への対応に焦点をあて考察した。礼拝／ミサ、聖者信仰／聖人崇敬、祝祭といった多くのエジプト人にとって重要な意味を持つ宗教実践は、他者との身体接触が不可避であることから、感染者が増加した3月から約3ヵ月間、モスクや教会をはじめとする宗教施設が閉鎖された。感染者が減少した6月にモスクと教会は十分な感染対策を施したうえで、一部礼拝／ミサを再開し、8月にはイスラームの金曜集団礼拝、9月にはコプト正教会の金曜ミサを再開した(ただし、カイロとアレクサンドリアの教会でのミサは12月以降、再停止)。こうした状況からは、前例のない事態に対し、ワクフ庁とコプト正教会が、それぞれ政府の規制や感染状況を見極めながら、刻々と変化する事態に臨機応変に対応していることが伺える。また、一部例外はいるものの、信徒も総じてこれら組織が定めた規定に

従っていることも明らかになった。このことは、これら組織やその指導者層の影響力の大きさを表しているといえるだろう。ただ、本稿ではコロナ禍が信徒個人に及ぼした影響については論じることができなかったため、今後この点については詳しくみていく必要がある。

ところで、今般エジプトのコロナ禍を調べるなかで意外に思ったことがある。オンラインでの礼拝やミサの実践に関する情報があまりなかった点だ。現地に住むムスリムやコプトに尋ねても、エジプトではオンライン礼拝／ミサは一般的ではないという。その理由として、ムスリムは、金曜集団礼拝以外の礼拝は家や職場で十分できることを挙げ、コプトは、コプトが運営する衛星放送チャンネルが複数あり、常にそのいずれかでミサの映像が放送されているためそれで代用できるとしている。しかし、筆者が近年調査を行っているイギリスやカナダのモスクやコプト正教会では、コロナ禍以前からモスク／教会に来られない信徒のためにYouTubeを利用した礼拝／ミサのライブ配信を行っており、コロナ禍以降、その重要性は増している。もちろん、エジプトとイギリスやカナダでは経済状況やインターネット環境が大きく異なるため単純に比較することはできないが、コロナ禍がこの先もつづく場合、エジプトにおいてもオンライン礼拝／ミサが普及する可能性はないとはいえない。今後はそうした観点も含め、コロナ禍のエジプトと欧米諸国のムスリム／コプトの宗教実践の比較も行っていきたい。

## 参考文献

---

### 日本語

岩崎真紀「宗教的マイノリティからみた1月25日革命—コプト・キリスト教徒の不安と期待—」(国際宗教研究所編『現代宗教2012』秋山書店、2012年) 219-238頁。

岩崎真紀「現代コプト正教会における聖人崇敬に関する一考察」(三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会—研究案内と基礎データ—』秋山書店、2017年a)、83-96頁。

岩崎真紀「コプト・ディアスポラの発展—カナダのコプト・キリスト教徒移民を事例とし

てー」(三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会—研究案内と基礎データ—』秋山書店、2017年b)、97-121頁。

NHK「ナイル川クルーズ船ツアー 参加者など感染確認26人に 厚労省」2020/3/17、<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200317/k10012334621000.html>, 2020/11/4 閲覧。

大塚和夫「中東」(大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2001年)、638頁。  
鵜塚健「内戦下のイエメン『最悪の人道危機』、コロナ拡大ならより深刻に」(『毎日新聞』2020/4/25(最終更新5/12)、<https://mainichi.jp/articles/20200425/k00/00m/030/013000c>, 2020/10/27 閲覧)。

東長靖「聖者」(大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2001年)、558-561頁。  
黒住真「聖人」(『岩波キリスト教辞典』大貫隆ほか編『岩波キリスト教辞典』岩波書店、2002年)、648-650頁。

戸田聡「コプト教会・古代」(三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会—研究案内と基礎データ—』秋山書店、2017年)26-30頁。

長沢栄治「中東近代史のもう1つの見方—アラブ革命の5年間を振り返って—」(後藤晃・長沢栄治編著『現代中東を読み解く—アラブ革命後の政治秩序とイスラーム—』明石書店、2016年)、18-50頁。

松波康男「異質な参詣者と聖地の『共同性』—エチオピア・ボサト郡に見られる参詣の諸相—」(『年報人類学研究』第3号、2013年)、74-96頁。

三代川寛子「コプト正教会について」(三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会—研究案内と基礎データ—』秋山書店、2017年)20-25頁。

村山盛忠『コプト社会に暮らす』岩波書店、1974年。

森伸生「サラート」(大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2001年)417-418頁。

中東教会協議会編、村山盛忠・小田原緑訳『中東キリスト教の歴史』日本基督教団出版局、1993年。

## 外国語

ABC News, “Egypt joins in prayer from balconies amid social distancing for coronavirus outbreak”, 2020/3/24, <https://www.youtube.com/watch?v=N8FrGF19Qdc>, 2021/1/13 閲覧。

Ahram Online, “Egypt to reopen Al-Hussein Mosque, isolate its shrine”, 2020/7/6, <http://english.ahram.org.eg/NewsPrint/373782.aspx>, 2021/1/12 閲覧。

Ahram Online, “Egypt’s Coptic Orthodox Church to resume Friday masses starting

- 11 September”, 2020/8/23, <http://english.ahram.org.eg/NewsContent/1/64/378387/Egypt/Politics-/Egypt%E2%80%99s-Coptic-Orthodox-Church-to-resume-Friday-ma.aspx>, 2021/1/12 閲覧。
- Ahram Online, “Nour Mosque in Cairo closes after violating coronavirus precautions”, 2020/12/29, <http://english.ahram.org.eg/NewsContent/1/64/397768/Egypt/Politics-/Nour-Mosque-in-Cairo-closes-after-violating-corona.aspx>, 2021/1/12 閲覧。
- Alaa Eldin, Menna, “Egypt to impose stricter measures during Eid El-Fitr holiday to stem spread of coronavirus”, *Ahram Online*, 2020/5/17, <http://english.ahram.org.eg/NewsPrint/369478.aspx>, 2020/1/11 閲覧。
- Alaa El-Din, Menna, “Egypt allows Friday prayers at major mosques starting 28 August”, 2020/8/19, <http://english.ahram.org.eg/NewsPrint/378120.aspx>, 2021/1/13 閲覧。
- Al Jazeera, “Egypt Confirms Coronavirus Case, the First in Africa”, 2020/2/14, <https://www.aljazeera.com/news/2020/2/14/egypt-confirms-coronavirus-case-the-first-in-africa>, 2020/10/27 閲覧。
- Al-Shamaa, Mohammed, “No children, no toilets: Egypt sets out mosque reopening rules” *Arab News*, 2020/6/3, <https://arab.news/pgmde>, 2021/1/13 閲覧。
- Al-Shamaa, Mohammed, “Cairo mosque resumes Friday prayers with pandemic plea”, *Arab News*, 2020/6/5, <https://arab.news/wnxa5>, 2021/1/11 閲覧。
- Atiya, Aziz, *Coptic Encyclopedia*, New York, MacMillan, 1991.
- BBC, “Egypt mourns Coptic church attack victims”, 2017/4/11, <https://www.bbc.com/news/world-middle-east-39555897>, 2021/1/12 閲覧。
- BBC, “Egypt opens Middle East’s biggest cathedral near Cairo”, 2019/1/7, <https://www.bbc.com/news/world-middle-east-46775842>, 2021/1/11 閲覧。
- BBC, “Coronavirus: Italians sing from their windows to boost morale”, 2020/3/14, <https://www.bbc.com/news/av/world-europe-51886547>, 2021/1/13 閲覧。
- BBC News ‘arabī, “Fayrūs kūrūnā: ḥālah wafāt wa ʿisābah jadidah fī miṣr wa tazāyud al-isābāt fī duwal ‘arabiyah” (Corona virus: one death, 46 new infections, and an increase in infections in Arab countries), 2020/3/19, <https://www.bbc.com/arabic/middleeast-51963726>, 2021/1/12 閲覧。
- CAPMAS (Central Agency for Public Mobilization and Statistics), *Egypt in Figures*, 2020, [https://www.capmas.gov.eg/Pages/StaticPages.aspx?page\\_id=5035](https://www.capmas.gov.eg/Pages/StaticPages.aspx?page_id=5035), 2020/10/30 閲覧 (とくに Population の章)
- Chittham, E. J., *The Coptic Community in Egypt: Social and Social Change*, 1986,

- Durham: Center for Middle Eastern & Islamic Studies University of Durham, 1986.
- CIA (Central Intelligence Agency), "Africa: Egypt", *The World Fact Book*, 2020, <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/eg.html>, 2020/10/28 閱覽。
- Egypt Independent, "Egypt's Coptic Orthodox Church closes churches, stops ritual services, masses", 2020/3/21, <https://egyptindependent.com/egypts-coptic-orthodox-church-closes-churches-stops-ritual-services-masses/>, 2021/1/12 閱覽。
- Egypt Independent, "Egyptian Cabinet announces new measures for Eid al-Adha holiday", 2020/7/24, <https://egyptindependent.com/egyptian-cabinet-announces-new-measures-for-eid-al-adha-holiday/>, 2020/1/11 閱覽。
- Egypt Today, "Coronavirus Egypt: Friday prayers for Muslims suspended at Al-Azhar; Sayeda Zainab Mosque closed", 2020/3/21a, <https://www.egypttoday.com/Article/1/82838/Coronavirus-Egypt-Friday-prayers-for-Muslims-suspended-at-Al-Azhar>, 2021/1/12 閱覽。
- Egypt Today, "Egypt's mosques, Islamic worship places closed to curb Coronavirus outbreak", 2020/3/21b, <https://www.egypttoday.com/Article/1/82841/Egypt-s-mosques-Islamic-worship-places-closed-to-curb-Coronavirus>, 2021/1/12 閱覽。
- Egypt Today, "Egypt's Coptic church's instructions on coexisting with COVID-19", 2020/6/28, <https://www.egypttoday.com/Article/1/89031/Egypt%E2%80%99s-Coptic-church-s-instructions-on-coexisting-with-COVID-19>, 2021/1/12 閱覽。
- Egypt Today, "Cairo's historical Al Hussein Mosque closed for COVID-19 restriction violations", 2020/7/2 <https://www.egypttoday.com/Article/1/89203/Cairo%E2%80%99s-historical-Al-Hussein-Mosque-closed-for-COVID-19-restriction>, 2021/1/12 閱覽。
- Egypt Today, "Coptic Orthodox Church announces reopening measures starting Monday", 2020/8/2, <https://egyptindependent.com/coptic-orthodox-church-announces-reopening-measures-starting-monday/>, 2021/1/11 閱覽。
- Egypt Today, "Egypt's Churches re-open after 4-month closure due to COVID-19 measures", 2020/8/3, <https://www.egypttoday.com/Article/1/90333/Egypt%E2%80%99s-Churches-re-open-after-4-month-closure-due-to>, 2021/1/11 閱覽。
- El-Feeki, Amira and Maslin, Jared, Anti-Christian Violence Surges in Egypt, Prompting an Exodus, *The Wall Street Journal*, 2019/4/26, <https://www.wsj.com/articles/anti-christian-violence-surges-in-egypt-prompting-an>

- exodus-11556290800, 2021/1/11 閲覧。
- ElSharqawy, Lamis, “Egypt denies rumours of closure of mosques in anticipation of a second wave of coronavirus”, *Ahram Online*, 2020/11/25, <http://english.ahram.org.eg/NewsContent/1/64/395569/Egypt/Politics-/Egypt-denies-rumours-of-closure-of-mosques-in-anti.aspx>, 2021/1/11 閲覧。
- ElSharqawy, Lamis, “Cairo’s Nour Mosque reopened after two-week closure over ignoring coronavirus precautions”, *Ahram Online*, 2021/1/13, <http://english.ahram.org.eg/NewsContent/1/64/398766/Egypt/Politics-/Cairo%E2%80%99s-Nour-mosque-reopened-after-twoweek-closure.aspx>, 2021/1/14 閲覧。
- Emam, Mostafa, “Egyptian church suspends all services for a month due to COVID-19”, *Arab News*, 2020/12/6, <https://arab.news/7j9m6>, 2021/1/12 閲覧。
- Hackett, Conrad. “How many Christians are there in Egypt?”, Pew Research Center, 2011/2/16, <https://www.pewresearch.org/2011/02/16/how-many-christians-are-there-in-egypt/>, 2020/10/28 閲覧。
- Hasan, S. S., *Christians versus Muslims in Modern Egypt: The Century-Long Struggle for Coptic Equality*, Oxford: Oxford University Press, 2003.
- Johns Hopkins University Coronavirus Resource Center, “Egypt”, 2021a, <https://coronavirus.jhu.edu/region/egypt>, 2021/1/11 閲覧。
- Johns Hopkins University Coronavirus Resource Center, “Mortality Analyses”, 2021b, <https://coronavirus.jhu.edu/data/mortality>, 2021/1/11 閲覧。
- Khalil, Majdi, *Aqbāt al-Mahjar: Dirāsa Maydāniya Ḥawla Humūm al-Waṭan wa al-Muwātana* (Coptic Diaspora: A Field Study on the Concerns of the Homeland and the Citizenship), Cairo: Dār al-Khayyāt, 1999.
- Minority Rights Group International, “Egypt”, 2021, <https://minorityrights.org/country/egypt/>, 2021/1/12 閲覧。
- Médecins Sans Frontières, “As COVID-19 spreads, fear drives people away from hospitals in Yemen”, 2020/7/9, <https://www.msf.org/covid-19-spreads-fear-drives-people-away-hospitals-yemen>, 2020/10/28 閲覧。
- Meinardus, Otto F.A., *Two Thousand Years of Coptic Years of Coptic Christianity*, Cairo, The American University in Cairo Press, 1999 (2014).
- McElwee, Joshua, “Pope Francis and Coptic pope agree not to re-baptize”, *National Catholic Reporter*, 2017/4/28, <https://www.ncreonline.org/news/world/pope-francis-and-coptic-pope-agree-not-re-baptize>, 2020/10/29 閲覧。
- Mourad, Mahmoud, “Egypt shuts mosques and churches over coronavirus fears”,

- Reuters*, 2020/3/22, <https://www.reuters.com/article/us-health-coronavirus-egypt-religion/egypt-shuts-mosques-and-churches-over-coronavirus-fears-idUSKBN2180M5>, 2021/1/11 閱覽。
- Mourad, Mahmoud and Lewis, Amin, “Egypt declares two-week curfew to counter coronavirus”, *Reuters*, 2020/3/24, <https://www.reuters.com/article/us-health-coronavirus-egypt/egypt-declares-two-week-curfew-to-counter-coronavirus-idUSKBN21B1MR>, 2021/1/11 閱覽。
- OCHA (United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs), “Yemen: 2019 Humanitarian Needs Overview”, 2019, <https://reliefweb.int/report/yemen/yemen-2019-humanitarian-needs-overview-enar>, 2020/10/27 閱覽。
- Raghavan, Susan, “As more virus cases trace their origins to Egypt, questions rise over government measures”, *The Washington Post*, 2020/3/10, [https://www.washingtonpost.com/world/as-more-virus-cases-trace-their-origins-to-egypt-questions-rise-over-government-measures/2020/03/09/d77fc718-61f3-11ea-8a8e-5c5336b32760\\_story.html](https://www.washingtonpost.com/world/as-more-virus-cases-trace-their-origins-to-egypt-questions-rise-over-government-measures/2020/03/09/d77fc718-61f3-11ea-8a8e-5c5336b32760_story.html), 2021/1/11 閱覽。
- Reuters, “Egypt reports death of German national, its first from coronavirus”, 2020/3/9, <https://www.reuters.com/article/us-health-coronavirus-egypt-idUSKBN20V0UR>, 2021/1/11 閱覽。
- Reuters, “Egypt shuts schools, universities for two weeks as virus cases increase” 2020/3/15, <https://www.reuters.com/article/us-health-coronavirus-egypt/egypt-shuts-schools-universities-for-two-weeks-as-virus-cases-increase-idUSKBN2110SH>, 2021/1/12 閱覽。
- Reuters, “Egypt to keep airspace open to allow tourist departures” 2020/3/17, <https://jp.reuters.com/article/health-coronavirus-egypt-airspace-idAFL8N2BA3TM>, 2021/1/12 閱覽。
- Reuters, “Egypt to ban Ramadan gatherings to counter coronavirus”, 2020/4,8, <https://jp.reuters.com/article/us-health-coronavirus-egypt-ramadan-idUSKBN21P2TZ>, 2020/1/11 閱覽。
- Reuters, “Egypt lifts night curfew, eases coronavirus restrictions from Saturday” 2020/6/24, <https://www.reuters.com/article/us-health-coronavirus-egypt/egypt-lifts-night-curfew-eases-coronavirus-restrictions-from-saturday-idUSKBN23U2FN>, 2021/1/12 閱覽。
- Ryan, Yasmine. “How Tunisia’s revolution began”, *Al Jazeera*, 2011/1/26, <https://www.aljazeera.com/features/2011/1/26/how-tunisias-revolution-began>, 2020/10/29 閱覽。



Soliman, Mohamed, “Egypt bans New Year celebrations, gatherings over coronavirus concerns”, *Ahram Online*, 2020/12/23, <http://english.ahram.org.eg/NewsContent/1/64/397439/Egypt/Politics-/UPDATED-Egypt-bans-New-Year-celebrations,-gatherin.aspx>, 2021/1/11 閲覧。

United Nations Population Division, “World Population Prospects 2019”, 2019, <https://population.un.org/wpp/Download/Standard/Population/>, 2020/10/27 閲覧。

WHO (World Health Organization), “Global: Egypt”, 2021/1/11, <https://covid19.who.int/region/emro/country/eg>, 2021/1/11 閲覧。

## 注

---

- 1) エジプトにはムスリムとコプトのほか、人口は非常に少ないものの、バハイイ教徒 (2,000–3,000 人)、ユダヤ教徒 (30 人以下)、シーア派ムスリムなどが存在する (Minority Rights Group 2021)。
- 2) コプト・キリスト教徒のうち、東方諸教会 (オリエンタル・オースドックス教会) に分類されるコプト正教会の信徒は約 95% を占め、残りの 2.5% ずつをコプト・カトリック教会信徒、コプト・プロテスタント教会 (エジプト福音教会) が占める (Chitham 1986: 8; Atiya 1991: 601–603)。
- 3) 2010 年末以降の中東諸国における民衆運動に対して欧米のメディアがつけた「アラブの春」という名称はアラブ諸国でも使われているが、実際には疑問を感じる中東出身者や中東研究者も多い。これにより起きた変動が、現実には「春」が意味するような穏やかなものではなかったこと、民主化への希求という欧米諸国が定めた 1 つの基準でしか事態をみておらず、実際にはさまざまな集団からの多様な要求が含まれていたことを捨象していることなどがその理由として挙げられる (長沢 2016: 29–31)。中東出身の筆者の友人知人の多くも、「アラブの春」を用いる代わりに「革命」を意味する「サウラ, *thawra*」というアラビア語を用いる。このことをふまえたうえで、本稿では「アラブの春」ではなくアラブ革命、エジプト革命という名称を用いる。
- 4) コプト正教会の起源については諸説ある。コプト正教会自体は 1 世紀に福音書記者マルコがエジプトにキリスト教をもたらしたとするが (Meinardus 1999: 28–29)、研究者のなかにはその説を疑い、2 世紀以降とする者もある (三代川 2017: 20, 戸田 2017: 26)。
- 5) たとえば CIA (2020) は 2015 年の統計としてムスリム 90%、キリスト教徒 10% と

する一方、Pew Research Center (Hackett, 2011) は2011年の時点でムスリム約95%、キリスト教徒約5%と見積もっている。エジプト政府による宗教人口に関する統計は1986年を最後に公表されていない(三代川2017: 21)。政府機関である中央統計動員統計局(通称CAPMAS)はさまざまな分野においてかなり細かな統計を公表しているが、たとえば毎年発行される *Egypt in Figures* にも、宗教に関する統計は掲載されていない(CAPMAS 2020)。この背景には、ムスリムとコプトの人口比が両者の対立の火種となることを恐れる政府の姿勢があると考えられる。

- 6) ただし、コプト自身は、みずからをマイノリティー(アカッリーヤ)と自称することや他称されることを忌避する(岩崎2012: 222-223)。
- 7) 一般的に Saint に関する訳語は、イスラーム研究においては「聖者」、キリスト教研究においては「聖人」が用いられる。各訳語の意味するところは、『岩波イスラーム辞典』(東長2001: 558-561)、『岩波キリスト教辞典』(黒住2002: 648-650)を参照のこと。
- 8) 逆に、コプトがムスリム聖者廟に参詣する姿は、筆者のミニヤ県での調査の範囲内ではまったくみられなかった(岩崎2017: 95)。しかし、コプト正教会と同じ東方諸教会グループに属するエチオピア正教会が主要宗教であるエチオピアでは、ムスリム聖者廟にキリスト教徒が参詣することもあるという報告がなされている(松波2013: 84)。
- 9) コプトもクリスマスや復活祭の前等の特定の期間、断食を行うが、この場合は一般的に肉類や乳製品といった動物性たんぱく質(一部期間は魚介類も)を断つ断食である。また期間もイスラームの断食とは異なり、断続的ではあるものの、1年間で合計約250日間にわたる(村山1974:131)。